

ケースレポート⑤

— 詳細な療養指導にAGPを活用したインスリン投与患者 —

患者背景

性別／年齢：男性、62歳

診断：2型糖尿病罹病歴 17年間

HbA1c：8.4%

糖尿病治療状況：混合型インスリン(25%超速効型インスリン、75%中間型インスリン) 35単位/日(7:00および19:00に投与)、メトホルミン 2000mg/日(分2)

現在の血糖値：患者の視力が低下しているため、血糖自己測定は妻が08:00と18:00に実施。妻は週4日、夜間シフト(19:00～07:00)で働いている。

フラッシュグルコースモニタリングを行なう目的：

家族は一週間を通じて血糖値(SMBG測定値)に大きなばらつきがあると述べている。重篤な夜間低血糖の発現への対処として、00:00から02:00までの間(患者の通常の就寝時間)に「少量の食事」を摂取している。HbA1cは目標範囲外であり、目標値である7.0%を達成するため、治療のどの部分を「強化」するかを判断する必要がある。

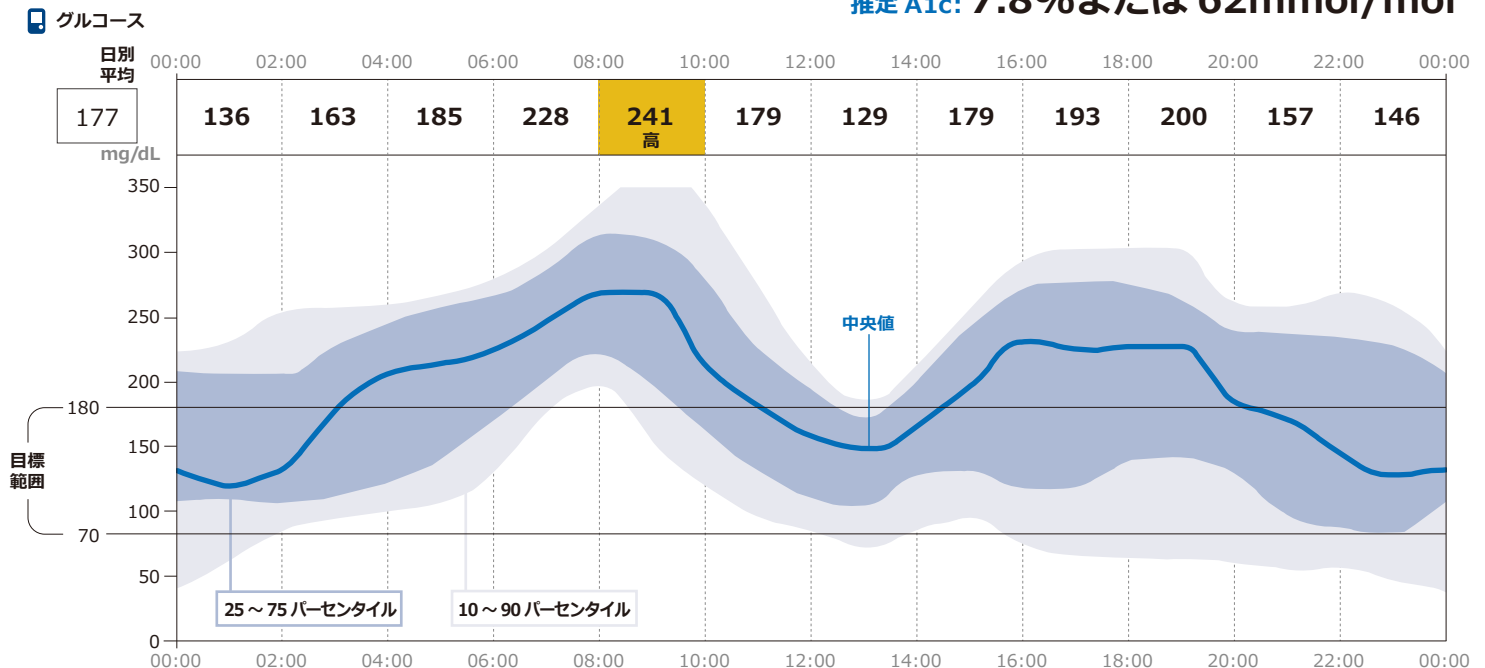
本症例はレポートについての情報提供・説明を目的とした仮想症例であり、専門的な医療アドバイスとして医療診断や医療処置のために使用することは意図していません。

● 治療介入前

日内パターン

2013年11月10日 - 2013年11月23日(14日)

推定A1c: 7.8%または62mmol/mol



レポートから得られた知見

① グルコース値は目標範囲内にありますか？

測定値の50%は目標範囲外である。中央値は00:00～03:00、11:00～14:00、20:00～24:00の時間帯で目標範囲内である。

② 低グルコースのリスクはありますか？

00:00～02:00、12:00～14:00、16:00～24:00の時間帯で、10パーセンタイル値が目標範囲を下回っており、時折、低グルコースが発現することを示している。

③ グルコース値の日内変動はありますか？

15:00～21:00の短い時間帯のみ中央値曲線は平坦である。他の時間帯においては中央値曲線が上下し、グルコースの日内変動が大きいことが示されている。

④ グルコース値の日差変動はありますか？

25～75パーセンタイルの幅は一日を通じて広く、全時間帯において日差変動が大きいことを示している。この傾向は14:00～24:00、00:00～06:00で最も顕著である。25～75パーセンタイルの幅が広いことは、高グルコースおよび低グルコースの原因となりうる。

今後確認すべき事項と次のステップ

	確認すべき事項	次のステップ
目標範囲に対するコントロール状況に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ● どのくらいの頻度で間食をとっているか ● 間食および食事の内容は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事内容の記録と栄養士への紹介。 ● 適切なライフスタイルの徹底。
低血糖リスクに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 混合型インスリンを正しく投与しているか。 ● インスリンの投与量を正確に合わせることができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者のインスリン投与手順を確認する。 ● 低血糖の予防と対処についての教育強化。 ● インスリン投与の調整を検討する。
日内変動に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 夕食時に正しい用量のインスリンが投与されているか。 ● 食事の栄養成分組成、特に脂肪、タンパク質、炭水化物の比率はどうか。 ● 08:00～13:00で、どのような運動または活動性が高まるようなことを行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者のインスリン投与手順を確認する。 ● 栄養士やその他サポートチームと食事について話し合う。 ● 活動量を増加することの効果、低血糖の予防について再検討する。
日差変動に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事および間食のタイミングと規則性はどうか。 ● 炭水化物摂取量と間食は一定かつ適正量か。 ● 常に正しい投与量を服薬しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事に関する話し合い。 ● ライフスタイル改善の徹底。 ● 妻の仕事(夜勤)がある日とない日のスケジュールの違いについて調査し、食事、活動量、インスリン投与の違いを把握する。

治療内容の変更(レポート解析の結果から)

糖尿病再教育コースへの紹介。栄養士と面談前の10日間、食事および運動内容を日記に記すよう指導した。低血糖の発現予防について再検討した。24:00から02:00までの間の「少量の食事」を見直し、空腹時血糖レベルでのスパイクを回避するように調整した。センサーの装着のため、90日以内に再受診するよう指示した。